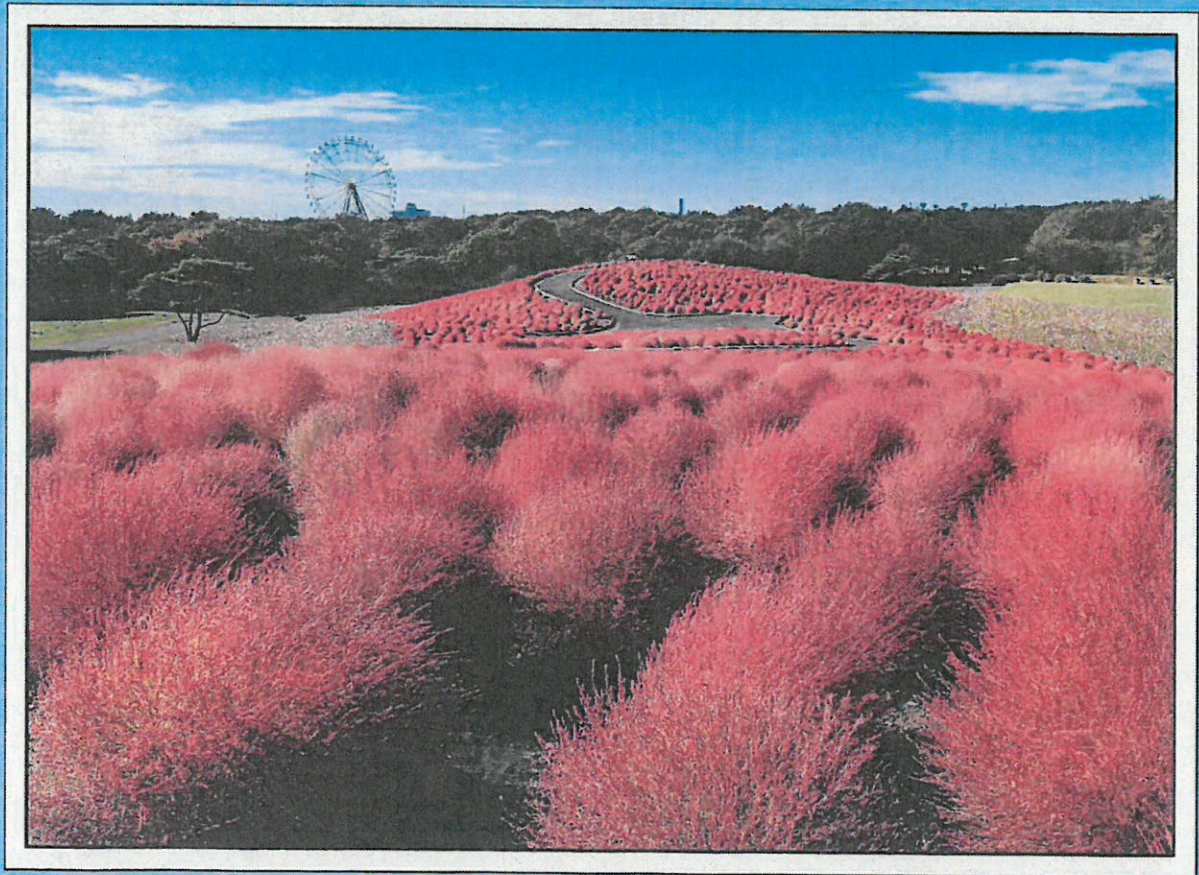


第13号

ひたちなか市文化協会会報「白亜紀」

白亜紀



ひたちなか市文化協会

題字 白亜紀 河野 秋月

由来 砂岩とシルト岩が互層を呈する7千5百万年前の中生代白亜紀の地層。白亜紀の岩に波の砕けるさまは悠久の命を感じさせる。文化芸術を創造し、享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見いだすことは、人々の変わらない願いである。人生は短く、芸術は永し、ひたちなか市文化協会の目指すものは悠久の芸術そのものである。

写真と文 「ひたち海浜公園」 松葉 久雄

前号に引き続き「ひたち海浜公園」今回は秋バージョンの「コキア」です。
みはらしの丘のネモフィラが公園の名所として定着したため、それ以外の季節の草木の選定が始まり、試行錯誤の上、台風に強く紅葉する草木として、コキアが選ばれました。
平成17年みはらしの丘の東側斜面5千㎡に4千5百本を試験的に導入したのが始まりで、現在は1万9千㎡に3万2千本と拡大しています。
コキアは、和名をほうき草といい、茎を乾燥させてほうきを作ること由来しています。
9月下旬から10月上旬にかけて、夏の緑色から少しずつ紅葉し始め、日々移ろいゆく緑と赤のグラデーションの色合いも魅力的ですが、鮮やかに紅葉してみはらしの丘を真っ赤に染めあげる様は、まさに絶景です。

目次

会長あいさつ 継続するという事	1	伝統芸能部門	
平成26年度活動報告	1	◆邦楽連盟	12
活動報告	1	◆吟詠剣詩舞連盟	12
総会	2	◆民謡民舞連合会	13
芸術祭	2	◆伝統文化連盟	13
研修会	3	◆華道・茶道部門	14
春の祭典	4	◆華道連合会	14
団体の活動紹介	6	◆茶道連合会	15
美術部門	6	◆文学部門	15
◆美術協会	6	◆俳句連盟	15
◆書道連盟	6	◆棋道部門	16
◆陶芸協会	7	◆囲碁連盟	16
◆写真家協会	8	文化協会組織図	17
音楽部門	8	編集後記	17
◆合唱連盟	8		
◆市民吹奏楽団	9		
◆市民オーケストラ	9		
◆Bトレインジャズオーケストラ	10		
舞踊部門	10		
◆舞踊連盟	10		
◆洋舞踊協会	11		



「春の祭典」迎花



継続するということ

ひたちなか市文化協会

会長 榎和美

昨年の11月1日にひたちなか市誕生20周年

記念式典がありました。多くの分野の方達が集まり表彰され、私共の文化協会もその折に賞状をいただいて来ました。改めて市の芸術・文化の担い手になっているのだと認識しました。

平成27年の今年は、文化協会が発足して19年になります。平成8年から15年まで初代の日下部清道会長、16年から17年まで2代目の渡邊妥夫会長、平成18年から21年まで3代目の仲田昭会長、そして平成22年から4代目の横が会長のバトンを引き継いでいます。市の芸術祭は平成8年より始まっています。

会報誌の「白亜紀」は平成15年より発行しています。3号までは白黒のページでしたが、4号からはカラーページになって、読みやすい紙面となり、題字や表紙の写真は会員の方々に協力していただき、校正も各団体から編集委員を選び、毎年発行して

います。

先日、「春の祭典」が開催されました。「春の祭典」は文化協会の10周年記念事業から始まり、来年10年を迎えます。始めた頃は舞台・展示それぞれにまとめるのが一苦労でしたが、年数を加えるにつれて、スムーズに運ぶようになり、市民の方々も徐々に来て下さり、集客も良くできてきたのではと思っています。

またここ数年続けています研修会は、主に姉妹都市や近隣の市町村との交流会を中心に行ってきました。他の文化団体の舞台や展示を見たり、話を聞いたりするのは、会員にとっていい刺激となっています。

文化協会の20周年を前に継続して行っている事を書き連ねてみました。外に向けてアピールしたり、会員相互の理解を得るのには、長く続けていくというのが大事だと思います。

20周年に向けて進んでいきましょう。

平成26年度 活動報告

- 4月17日 ・理事会
生涯学習センター
- 4月28日 ・会計監査
生涯学習センター
- 5月9日 ・理事会
生涯学習センター
- 5月23日 ・26年度総会・懇親会
クリスタルパレス
- 7月18日 ・理事会
生涯学習センター
- 9月18日 ・編集委員会
生涯学習センター
- 9月30日 ・芸術祭開催
生涯学習センター
- 10月22日
市文化会館他
- 10月17日 ・理事会
生涯学習センター
- 1月16日 ・理事会・舞台部門会議
市しあわせプラザ
- 2月22日 ・春の祭典
市しあわせプラザ
- 3月6日 ・研修会
国立新美術館
東京江戸博物館

総 会

平成26年度 ひたちなか市文化協会総会

日 時 26年5月23日(金)
午前10時30分から
会 場 クリスタルパレス 長寿荘
出席者 52人
委任状 18人 (構成員 70人)
議 長 榎田 眞氏(市民オーケストラ)
司 会 若柳 恵吾氏(舞踊連盟)

本年度の総会は、若柳氏の司会進行で開催され、榎会長の挨拶から始まり、来賓の本間源基市長および樋之口英嗣市議会議長よりご祝辞をいただき、その後、来賓の方々の紹介がありました。

議長に榎田氏が選出され議事に入り、25年度事業実績、収支決算および決算監査の報告があり、すべて承認されました。

議案の26年度事業計画、収支予算および理事の承認については、原案通り承認可決されました。

組織改編により、規約の一部改正があり、役員改選では、正副会長留任で承認されました。25年度で川柳会が退会された事、石巻市文化協会



「ひばりコーラス」の皆様による アトラクションの様子
「おぼろ月夜」など懐かしい10曲がメドレーで披露され、美しいハーモニーが響き渡りました。

文化協会役員

顧問 仲田 昭 (写真家協会)
会 長 榎 和美 (合唱連盟)
副会長 平野 伸生 (写真家協会)
初見 宗郷 (邦楽連盟)
曾我部富代 (合唱連盟)
高橋 和彌 (民謡民舞連盟)

との有意義な文化交流が出来た事など報告、予定された全ての議事が承認され総会は終了しました。

同会場において、合唱連盟「ひばりコーラス」のアトラクションを鑑賞しながら昼食をとり、和やかに会員相互の交流が図られ閉会しました。

芸術祭

平成26年度 日程

9月30日 ～10月5日	美術展覧会(絵画・彫刻・写真)
10月12日	日本舞踊公演&チャリティ舞踊まつり
10月12～13日	いけばな展
10月19日	市民オーケストラ第33回定期演奏会
10月19日	吟詠剣詩舞大会第45回勝田支部
10月21～26日	美術展覧会(書道・陶芸)
10月26日	ふるさとの伝統芸術文化鑑賞会
10月30日 ～11月3日	児童生徒作品展
11月3日	第44回民謡民舞秋まつり
11月3日	吟詠剣詩舞大会(第63回那珂珂湊支部)
11月6～7日	市内小中学校音楽会
11月9日	Bトレイン22周年コンサート
11月9日	茶道連合会茶会
11月16日	第34回邦楽連盟定期演奏会
11月16日	俳句大会
11月23日	バレエ&ジャズダンスフェスティバル
11月24日	合唱祭
11月30日	市民吹奏楽団第30回定期演奏会
1月18日	市民囲碁大会
2月22日	文化協会総会発表会 「第9回春の祭典」

今年度の芸術祭は、9月30日～2月22日まで上記日程で開催されました。各会場で趣向を凝らして実施され、多くの市民の皆様楽しんで頂き、盛会裏に終了することが出来ました。

芸術祭は、加盟団体に活動の成果を発表する場を提供するとともに、市民の皆様へ芸術文化活動の振興につながるよう開催しています。

ひたちなか市誕生

20周年記念式典で文化協会

「教育文化功労」で表彰

平成26年11月1日市文化会館において、ひたちなか市誕生20周年記念式典が開催されました。この式典において、当協会は、これまでの活動の成果が評価され「教育文化功労」で表彰を受けました。

平成8年に勝田市文化協会と那珂湊市文化協会が合併して誕生した当協会も、間もなく20周年を迎えることとなります。今後とも、会員相互の連携を密にし、地域文化の振興発展を進め、その役割を積極的に推進して参りたいと思えます。

研修会

日程 3月6日(金)
場所 国立新美術館(ルーヴル美術館展)
江戸東京博物館(探検・体験・江戸東京)

他地域の文化団体との交流会や、芸術文化施設等の視察を通して、会員の技術や意欲を高めると共に、会員相互の親睦を図る目的で行われ、今年で4回目となります。

ルーヴル美術館展鑑賞

書道連盟

是枝 和子

3月6日14団体35名を乗せたバスは、平日ということもあり、定刻を少し遅れて国立新美術館に到着。

今回初来日が叶ったフェルメールの「天文学者」他、ルーヴル美術館コレクションの中から厳選された「風俗画」83点の公開ということ、さぞかしと思われた混雑もさほどのこともなく、早速音声ガイドを借りて入室する。

まず紀元前2〜1世紀に石灰岩に描かれた「シドンの彩色墓碑(二人の幼子を両脇に佇む女性)」が目にはいる。この古代芸術が人間の為に

描かれる「風俗画」の源泉となったのか等々考えながら目は絵を追い、歩を進める。そして、16〜19世紀にかけて庶民の日常を細やかに描写した「風俗画」のフロアに入る。芸術に触れる喜びはもとより、当時の人々の生活やその背景にある社会状況まで、見る者に限りない想像を掻き立ててくれる。加えてその作品の中にある寓意を読み解く楽しみは、幼い頃読んだインソップ物語に思いが至る。

きわめて装飾的な静物画に見える「チェス盤のある静物」は人間の視・聴・嗅・味・触の五感を描いているのだと音声ガイドが囁く、「なほど花が視で楽器が聴でチェス盤は触で……。するとこの絵は何(精神性)を伝えたいのか」、答えが出るまで立ち止まってられない。

そしていよいよ本展の主役・日本の衣を羽織る「天文学者」は天球儀で何を確かめ、机上の書物には何が記してあるのか。壁にはヘブライの民をカナンへ導くモーセの絵が掛か

る。フェルメールは何を……。興味は尽きない。

1746年頃に描かれたという、棒の上に筆を持った手をのせ、虚ろな目で此方を向く「猿の画家」と対面した時、この痛烈な皮肉と強い主張に、「風俗画」こそヨーロッパ絵画の神髄であるという意図が伝わると。それがとりもなおさずこの展覧会の主題だったのかと思う。素晴らしい充実したこの一日に感謝します。

驚きのルーヴル美術館展

写真家協会

清水 克之

梅香る、3月6日、平成26年度市文化協会研修会が開催されました。協会加盟14団体、35名の参加による美術館、博物館行きの研修会でした。

最初の研修会場は、国立新美術館です。この日本最大の美術館は収蔵品を持たない美術館の為、展覧会の開催等を目的としていて、今回は膨大なコレクションを誇るルーヴル美

術館から83点が来日されました。特に、フェルメールの「天文学者」は待望の初来日ということでも人気を集めていました。

中世の絵画のジャンルは頂点から歴史画、肖像画、風景画、静物画、風俗画とあったそうです。風景写真でもそのような傾向が見られます。が、巨匠達は、この下位の風俗画に歴史的なものを描いたりしてジャンルを超え境界を越え社会的、道徳的な名画を私達に遺してくれました。

それにしても、16世紀から19世紀の300年、400年前の絵画が、それこそ、色鮮やかに顔面に広がるうとは驚きでした。

時代と地域を横断する、ヨーロッパの名画の多彩な魅力を堪能しました。

次の研修会場は、江戸東京博物館です。相撲の国技館の隣に位置する都立の博物館で、現在、リニューアル中。江戸や東京の歴史、明治維新文明開化、関東大震災、東京大空襲などの展示がありました。

浅草雷5656会館で昼食後、浅草仲見世を散策し参加仲間と異文化交流をいたしました。

第9回 春の祭典

2月22日、市しあわせプラザ（那珂湊総合福祉センター・ふれあい交流館）にて春の祭典を開催しました。今年度は市文化会館が工事で使用不可のため、比較すると小規模会場となり、展示・舞台部門とも縮小したの開催ですが、出演者・各係の皆さんにご理解、ご協力をいただいていた無事に開催することが出来ました。

展示部門では、華道連合会による迎花を始め、各団体とも充実感溢れる力作を展示。囲碁連盟では展示の他に実践対局もあり、楽しんで頂けたと思います。

舞台部門では、それぞれ創意工夫した演目が披露されました。多くの皆様にご来場いただき、どの演目にも盛大な拍手が送られていました。春の祭典は、加盟団体が一堂に会して日頃の成果を発表する協会最大のイベントです。一日を通して芸術文化に幅広く触れることのできる事業で、協会の活動を理解して頂く上で大変意義深いものです。各団体の様子は、写真でご覧ください。

あいさつ

本間 源基 市長



横 和美 会長



樋之口 英嗣 市議会議長



【 展 示 部 門 の 様 子 】



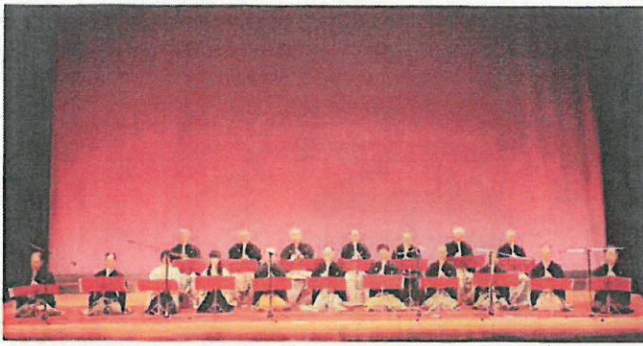
【 舞 台 部 門 の 様 子 】



市民オーケストラ



市民吹奏楽団



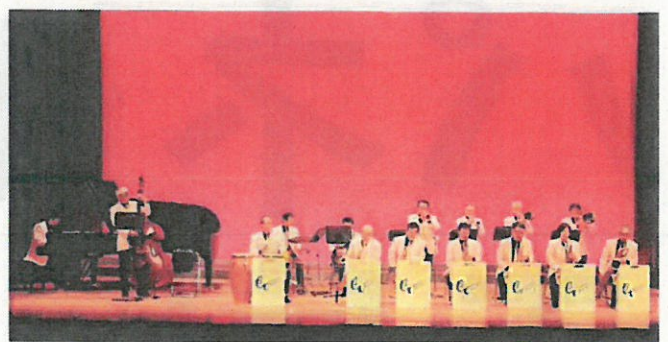
邦楽連盟



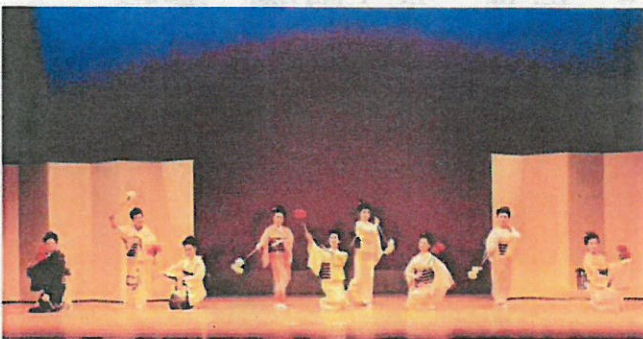
合唱連盟



伝統文化連盟



Bトレイン・ジャズ・オーケストラ



舞踊連盟



吟詠剣詩舞連盟



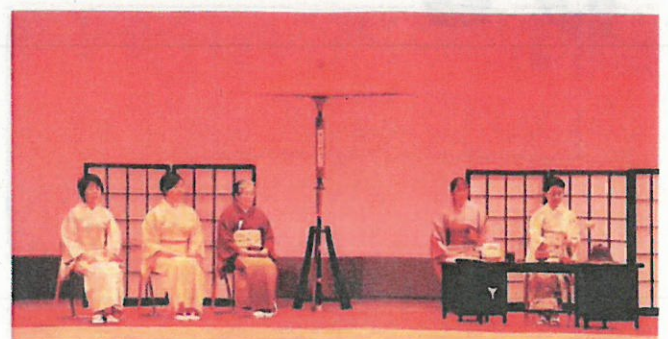
洋舞踊協会



洋舞踊協会



民謡民舞連合会



茶道連合会

団体の活動紹介

協会では現在18団体(100支部
団体)に2208人の会員が在籍し、
様々なジャンルにおいて活動して
いますのでご紹介致します。

美術部門

県芸術祭

岡田力夫氏連続入賞す

美術協会会長

三好 義章

例年本協会は定期的な行事を行い
会員相互の向上を図っている。

①協会主催の作品展(年1回)

50号からの大作が並び見応えの有
る展覧会となっている。是非ご覧
いただきたい。

②人物描画研修会(年2回)

例年着衣モデルをお願いし、1日
から2日熱心な研修を重ねている。

③市芸術祭への参加協力

市民の皆様が多数参加できるよう
配慮したり、毎年のポスター掲載作

品は会員の中から選出している。今
後とも多数の出品をお願いしたい。

④宿泊を伴う県外研修(年1回)

11月初旬に行う風景研修。今年度
は2泊3日で群馬県浅間山において
実施し親睦を深めた。

⑤「春の祭典」への参加協力

小品の展示であるが、今後は1日
だけの展示ではなく、もう少し長く
展示したいと願っている。

又、毎年会員が出品を続けている
10月の「県芸術祭美術展覧会」では、
会員会友(洋画・日本画含め)16名
が出品し、一般として6名が入賞入
選を果たした。



美術協会会員展の様子



県芸術祭 岡田さんの力作 写真中央



県外研修の様子

古文書に感動

書道連盟会長

長山 素龍

本年度特筆されるのは読売書法展
で小池松峰氏が読売賞を受賞したこ
と、日展に西野香葉氏が初入選を果
たしたことがあげられます。いずれ
も入賞・入選率が数%と大変に難し
いだけに、この快挙に対し連盟とし
ても大いに元気づけられていること
ろです。

行事では4月に第39回連盟展を市
文化会館で、一般82点、学生120
点の出品を得て実施しました。一般
部では芸術作品としての書を追求し
た部門と、日常生活の中に溶け込ん
で、人生の糧となるような詩文を作
品にした小品部門(色紙以下の大き
さ)を設けました。

特に一般部門は漢字の始まりの甲
骨文から一番新しい漢字・漢字かな
まじりの調和体まで、文字の歴史が
一堂に会した感がありました。

「こんな書体があったのネ」と興味
を示してくれた人もおり、又、小品
部門も熱心に観て頂き好評でした。

11月には21名が参加し、古河市美術館・博物館等の見学・研修を日帰りで実施しました。印象に残ったのは全国唯一の篆刻美術館で古代から現代までの書作品等に押す雅印数百点の展示があり知識が豊富になったこと。歴史博物館の富士山に関する企画展では昔の地図や絵と一緒に多くの古文書が鑑賞でき、当時の人たちの達筆さに感動を覚えたことでもあります。



研修旅行



▲ 小作品の部
書道連盟展
展示作品より
▲ 一般の部
▲ 学生の部

【書道連盟の行事】
第39回連盟展(一般・学生併催)
4月25～30日 市文化会館
市芸術祭
10月21～26日 市文化会館
研修旅行
11月9日 古河市美術館
文化協会春の祭典
27年2月22日 市文化会館

継続は力なり

陶芸協会会長 芳賀博

津田公民館の主催事業を出発点として1978年に設立して、今年で36歳を迎えました。当初は、粘土をこねて創った作品を乾かし、これを笠間市にある「窯元」に持ち込み焼成してもらおう事から始まりました。その後、市行政の関係の皆さんのご理解と支援により陶芸の必須アイテムの焼成窯などが設置され、ひたひたなか市、唯一の素人陶芸の場として、発展してきました。

現在の会員数は、87名で生涯学習センター津田分室を活動拠点として、「創って、使って、観て、贈って」を合言葉に陶芸を楽しんでいます。プロの陶芸家による技術講習や、会員相互の技術交流などを通し、陶表現の展開をめざし新しい技術を取り入れレベルアップを図っており、市展、県展、中央展などで、多数の入選入賞者を出しています。地域との交流は、コミセンの主催事業の陶芸教室、夏休み子供陶芸、

また市内の幼稚園への出前陶芸、福祉協議会や高齢者対象の陶芸教室など指導の支援を、継続的に行っていきます。

窯元見学「里秋窯工房」のギャラリー光景(自性寺焼)



記念撮影の風景



本年の窯元研修旅行は、群馬県安中市秋間地区に産出する良質な陶土を用いて丹念に手作りし、登り窯や穴窯で、松薪により焼成した、温もりのある自性寺焼「里秋窯工房」ならではの作品を堪能してきました。

恒例の、会員の成果発表のための「作品展」と「チャリティー」販売を、2月27日から3月3日までニューポートひたちなか「ファッショングルーズ」にて開催の予定です。

地域の生涯学習の一つの要素として継続し発展できるよう活動していきます。

今思うこと

写真家協会

佐藤 玲子

若い若い、といわれていたわたしも還暦を過ぎました。写真を趣味として20年近くたつてしまいました。そして今、思うこと。

若い人たちが育っていないこと。写真家協会に在籍している人たちはほとんどが、60代70代の方々。これから10年が経過した時にはたして会

員は何人いるのか？不安がよぎりま

す。街に出ますと、携帯電話、スマートフォンを片手にカシヤカシヤと写しているようです。

「ただシャッターを切っているのでは写真ではないのです。パソコン、携帯、スマホで見ているのは、データであって写真ではないのです。プリントしてはじめて写真になるのです。」とある著名なカメラマンのことばです。では、スマホ等で写している若い人たちを取り込むためにはどうしたらよいのか。魅力ある写真家協会にするためには…。

ひたちなか市内だけでもいくつもの写真団体が存在しています。かわいいことは、わかりませんがどこも同じように高齢化に悩んでいるようです。

フィルムから、デジタルへ…。機材が変化しても、美しい物を残したい、という気持ちはいつも変わらな

せんよ。市芸術祭を活気あるものにするためにも…。



春の祭典「写真と俳句のコラボレーション」風景

音楽部門

みんなで一つになつて

合唱連盟 パールコーラス

秋沢 知子

パールコーラスは今年創立53年を

迎える市内で一番歴史のある合唱団です。現在までの35年間ご指導頂いている指揮者の田口先生は、音大の音楽科で学び、その後オーケストラやプロの合奏団でも指揮者として活躍中です。

私達は長い間、県や市の合唱祭はもとより他県での合唱コンクールや最近では横浜での国際シニア合唱祭に毎年参加し、多くの賞を頂きました。

先生の熱意溢れるご指導にはなかなかついていけない私達ですが、世界の音楽家が求めるベルカント唱法の習得を目指し、毎週金曜日午後の練習時には発声トレーニングとして声楽の教本「コンコーネ」を使用して基礎練習に力を入れています。

曲のレパートリーは幅広く、斬新な編曲のものにも挑戦し、クラシックをアレンジした曲では、原曲の録音を聴いて、田口先生の音楽作りならではの個性が光るような演奏が出来たらと毎回選曲に心をくだいています。

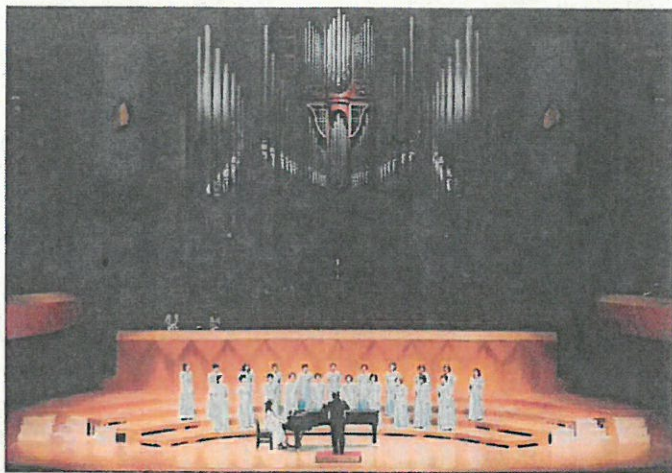
今年の合唱祭はポピュラー音楽です。おなじみの「涙そうそう」と「北の国から」を合唱用にアレンジ

した曲に取り組みました。

仲間が一つになっっているからこそ練習も益々楽しくなり、元氣も湧いてきます。

これからも音楽を楽しみ、歌に心をのせて、みずみずしい感性を持ち続けながら熱く歌っていきたく願っています。

国際シニア合唱祭
横浜みなとみらい大ホールにて



活動紹介

市民吹奏楽団事務局長 宮内慶樹

市民吹奏楽団は、11月30日に第30回定期演奏会を市文化会館大ホールにて開催しました。

今回の演奏会では、ひたちなか市誕生20周年をテーマに1部では「ひたちなか」の文字より5曲選曲し、2部では邦人作曲家の曲より演奏致しました。

その他の活動は、春のコンサート・吹奏楽コンクール・市内のお祭り・結婚披露宴での演奏なども行って来ました。

また、今年度は枝川小学校合奏団への楽器指導を行い、11月末には枝川小学校音楽会にて小学生との合同演奏も行いました。

こうした活動は市民の皆さんや同じ吹奏楽で活動している方との貴重な交流の場となっています。

今後も、聴いて下さる皆様が笑顔になる演奏や、市民の皆様が愛されるバンドを目指して活動してまいります。



第30回定期演奏会の様子

変革の時

市民オーケストラ団長 榎田 眞

組織は、大きく変わらなければならぬ時があります。今年の市民オーケストラは、まさに大きく変わりを始めたところです。1988年の

第6回定期演奏会から昨年度の第32回定期演奏会まで指揮者としてご尽力頂いてきた秋山俊樹氏に代わり、今年度より若手の坂巻史和氏が指揮を取るようになりました。

今年度の第33回定期演奏会で取り上げたメインの曲は、ハイドンの交響曲第101番です。「時計」という名で親しまれているのでご存じの方も多かったでしょう。今までにメインの曲にベートーベン以前の古典を取り上げることは少なく、市民オーケストラとしては新たな試みでした。

また指揮者の坂巻氏は作曲家でもあり、指揮者就任を機に、市民オーケストラのためにオリジナル曲を書き下ろして頂きました。坂巻氏は東京在住なので練習のたびに常磐線でご足労頂いているわけですが、勝田駅に降り立った時に感じたことやひたちなか市の印象を曲としてまとめ、曲名も「Victory Station」勝利駅」と名付けられました。この曲はアンコールとして演奏し好評を博しました。また従来より続けている「地元の若手演奏家をソリストとして迎え、



第33回定期演奏会
チヨン・キヒョン氏によるテノール独唱

「ご紹介する」というスタイルは変わることなく、今回は大洗町出身のテノール歌手チヨン・キヒョン氏によるイタリアオペラのアリアを演奏しました。

さて、来年度はコンサートミストレスが交代します。どのような演奏になるかご期待下さい。

第22回定演を終えて

Bトレインジャズオーケストラ
砂原 淳

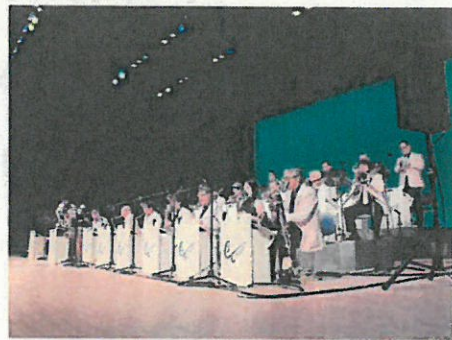
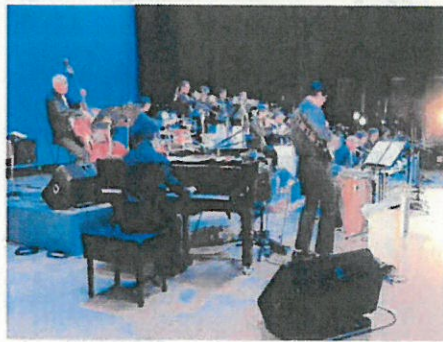
11月9日、市文化会館で開催した、第22回定期演奏会に大勢の方々にご来場頂き誠に有難うございました。

定期演奏会では毎回テーマを決めて、選曲やゲストミュージシャンとの共演により聴き応えのある音楽の提供に心掛けております。今回の演奏会では、デイズニーやラテン楽曲を中心として聴き馴染みのある音楽を取り上げでおり、多くの方々にご満足いただける内容であったと自負しております。また、長年のキャリアを通して円熟を帯びたメンバーの演奏に親しみを感じて頂けたのではないかと考えております。

先日、県内近郊で活動するピクニックバンドが出演するイベントに参加致しました。出演者は、小学校で構成するバンドから社会人バンドまでと幅広い世代に渡りますが、各バンドのサウンドや選曲、楽曲アレンジを対比できて新鮮に感じましたし、演奏技量に加えてバンドの個性や思いが表れる演奏を心掛けることは観客

を魅了するための重要な要素として、改めて気付くことができました。

第22回定期演奏会より



今後も演奏活動を通して、世代や性別を問わず楽しんで頂けるコンサートを提供したいと考えております。バンド発足時から末永くご最厚頂いている方々をはじめ、学生や未

就学児の親子など若い世代の方々にも積極的に足を運んで頂けるよう、演奏技術の向上に精進すると共に、アイデアや工夫を凝らして、老若男女多くの方々に「魅て」「楽しんで」頂けるコンサートづくりに取り組んで参ります。

舞踊部門

26年度市芸術祭参加舞踊連盟

伝統文化日本舞踊子ども教室
保護者 鈴木 玲

岩井友紀一門会、伝統文化日本舞踊子ども教室で学んで6年目になります。今年、6月に10年ぶりとなる一門会のひたちなか公演、そして6回目の参加となるひたちなか市芸術祭と大きな舞台が続き、特別な年となりました。

日頃のお稽古の成果を出す事が出来た子ども達の姿は少し成長したように見えました。今回は本格的にお

- 体験こども教室 -



童曲 - 絵日傘 -



長唄 - 菊づくし -



常磐津 - 屋敷娘 -

支度をして頂き初めての白塗り、日本髪姿で踊る様子は本当に皆可愛らしく親子共々貴重な体験になりました。

又、5月の岩井会にはひたちなかの子ども教室から2名参加し東京の国立劇場で御宗家と同じ舞台に立たせて頂いた事は忘れられない思い出になりました。

これからも、日本の伝統文化を学べる子ども教室は継続して欲しいと心より願っております。

今年の活動報告

洋舞踊協会会長

増田 理恵

洋舞踊協会の舞台はとても華やかです。けれど、日々行うことは地味で、基礎レッスンの繰り返し。踊るためのしなやかで強い身体を育てるためです。始めてすぐ成果の出るものではありませんが、やがて変わっていく自分を発見できるのです。

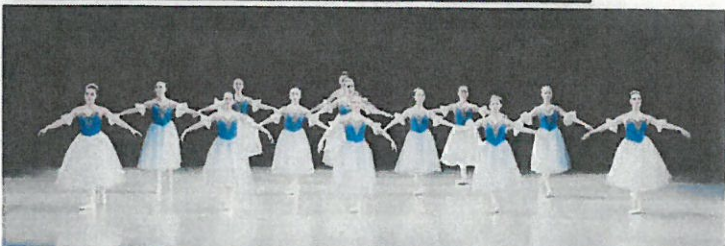
今年、秋でしたが、年末に開催される芸術祭は、それを実感できるよい機会です。美しいライトを浴びて、ひととき夢の世界へ。夢は人の心も身体も元気にします。そして、夢をさらに大きくもつて、国内外のコンクールでよい成績を修めたり、海外への留学を志したり、又、プロの道を歩んでいるものも居ります。踊ることの楽しさを知っていたただくため「市民のための一日ジャズダンススクール」「各種研修会」そして「芸術祭」とその活動は、今年も活発で充実しておりました。



ハレルヤジャズダンス「赤毛のアン」



ハレルヤバレエ「クララの夢 - くるみ割り人形より」



高木文子バレエスクール「古典交響曲」



エリーダンススタジオ「First Finale」

伝統芸能部門

リズム、テンポのある曲を演奏

邦楽連盟

根本玉登恵社中 根本 玉登恵

邦楽連盟に入って30年、諸先生方に導かれてここまで続けてこられました。

私達は、坂本勉先生の後継者で家元江戸信吾先生の曲を演奏してまいりました。現代のリズム、テンポ感のある曲が多く、宇宙や四季をテーマにまたスケルツォなど滑稽な曲も作曲しています。

これからも江戸曲を、楽しくリズムミカルに演奏ができるように精進していきたいと思えます。

また、どうして伝統音楽が、なかなか発展していかないのか憂いでおります。西洋音楽だけでなく日本の伝統音楽が学校で重視されなければ育っていかないのであるか？

そこで、連盟では今年から次世代に繋げるために、小学生を対象に伝統文化親子教室を開催いたしました。11月16日の三曲演奏会に子供の部で



平成16年市芸術祭
「証城寺スケルツォ」演奏

平成22年市芸術祭
「雪しまき」演奏



演奏をし、先生方のご指導の下、無事にしっかりと演奏ができました。これからも子ども達に少しでも興味を持って続けて欲しいと願っております。

芸術祭吟詠剣詩舞大会

吟詠剣詩舞連盟

勝田支部長 中野 権郎

日本晴れの好天を迎えた10月19日市文化会館において芸術祭勝田支部第45回記念大会を開催しました。大会には本間市長はじめ横和美文化協会会長の祝言を頂き感謝申し上げます。特に市長からは日本の伝統芸術である吟道を後世に伝えて欲しい旨のお言葉があり、肝に銘じる思いを致しました。

今回は記念大会であり、指向をこらし、構成吟や花道吟を主体にプログラムを作成し、多くの関心を頂くことができました。特に構成吟『南北朝哀史』では水戸光圀公も絶讃される「楠木一族の」忠臣な心をあらためて学んだ思いでした。



構成吟のフィナーレを飾る出場者の皆さん

写真にも紹介しておりますが今回幼少年の皆さんが何組か出場してくれ、会場を和ませてくれました。やはり、今後を担う幼少年の入会が必須であります。会員の皆さんからの誘い合いをお願いします。

今回も例年に増して那珂湊支部から多くの応援出場をして頂き感謝を申し上げます。

また、那珂湊支部第63回大会を11月3日しあわせプラザふれあい交流

館で開催しました。

構成吟『四季の詩』では春夏秋冬の大自然を詠われた多くの詩の中から20詩を厳選し、吟と舞を発表された。老若男女総出の素晴らしい演技でした、特に今後を担う幼少年の舞いにはお涙のシーンを感じました。

26年度合吟コンクール優勝チーム
(小学生の少女も活躍)



母親に寄り添う子供と
16歳の義兄の家族合吟



郷土芸能で社会貢献

民謡民舞連合会

渉外局 大山 弘男

民謡民舞は、生活の喜怒哀楽や故郷の自然や恵みに感謝する心より生まれた、祖先より受け継がれた郷土芸能です。

郷土を愛する心は、社会貢献活動となり、今年度は福祉施設のボランティア活動を始め各種募金活動により、市社会福祉協議会から感謝状を受賞しました。

次世代の子ども達への伝承も大事な事で、芸術祭民謡民舞秋まつりでは、紅楽会が指導する学童達の銭太鼓踊りは心温まる演技となりました。

連合会の自慢は一人の百歩より百人の一步を大切に合奏合唱民舞が全員で発表される事です。



受賞を喜ぶ各支部長

今年度も和と輪を大切に運営して行きたいと思えます。

今年度の芸術祭鑑賞会

伝統文化連盟会長

鈴木 隆

「ふるさとの伝統芸術文化鑑賞会」は、10月26日(日)市文化会館大ホールで社会福祉支援チャリティコンサートを、特別ゲストを迎え、伝統芸術の素晴らしさを感じて頂く場として実施しました。

今回はⅢ幕から編成し、第Ⅰ幕は「八千代獅子編曲」で龍笛、胡弓、第一箏、第二箏、十七弦、三絃・唄、尺八、に日本舞踊を交えての幕開け、舞台創作華道、居合道、筑前琵琶、弓道と続き、第Ⅱ幕は「定めなき世の」胡弓の朶(胡弓、箏本手、箏替手)、和洋のハーモニー(大正琴、ソプラノ箏、箏、尺八、チェロ、ギター・カホン)、日本舞踊、磯節、能楽、第Ⅲ幕は「日本の歌・思い出のメロデー」で、親から子へと受け継がれてきた日本の名曲の民謡や、わらべ歌と童謡を和楽器用に編曲し、チェロや歌と日本舞踊子供教室の踊りを交えての演奏で、それぞれの異なる楽器と演奏者の心をつなげて、作り上げた日本の歌の共演です。



愛好会の三味線合奏

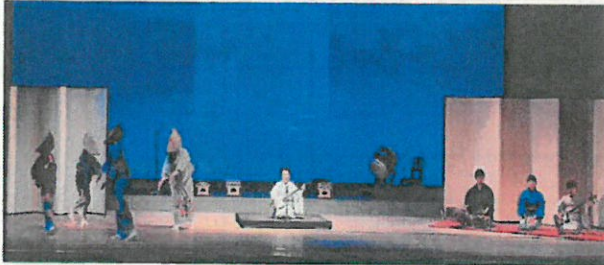


三世代 銭太鼓おどりの紅楽会

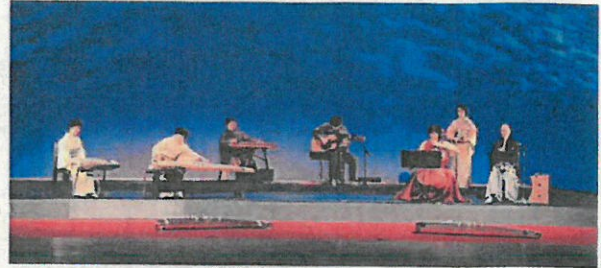
芸術祭民謡民舞秋まつり

今後も各先生方と協力し、日本の伝統芸術の継承に努力したいと思っております。

幕開け
八千代獅子編曲



磯節：時の流れに



和洋のハーモニー



終演：日本の歌 / 思い出のメロディー

華道・茶道部門

「いけばな展」

華道連合会会長

杉山 豊和

10月に入ってから、週ごとに台風が押し寄せてきて心配しましたが、最終日まで雨も降らずに終了することができました。お陰様で1000名を超える多くの皆様にご来場いただき、お楽しみいただけたこと、安堵いたします。

会員164名の出瓶者により、それぞれ流派の特徴を生かした「華やかな空間」を作り上げることができました。また、「いけばなこども教室」で学ぶ5歳から高校生までの生徒さんたちも堂々とした素敵な作品をいけていただきました。



出瓶者のみなさん

今後もいけばなを通して皆様心のやすらぎとなれるよう、精進してまいりたいと思います。

龍生派



松應会



文学部門

石巻市を訪ねて

俳句連盟副会長 吉元 絹江

平成26年3月14日から15日の2日間、ひたちなか市と姉妹都市である宮城県石巻市との文化交流会が行われ、当俳句連盟からも、大野ひろし会長はじめ、高橋和彌、吉元絹江の3名が参加した。

先の東日本大震災での津波浸水による被害は宮城県が最大と言われており、現地に到着するまで、心中落ち着かなかつた。春とは云え、3月のみちのくはまだまだ寒風の中。そしてバスを降りたとたん一番先に目に入ったのは瓦礫の片付けられた後の広大な更地であった。

班雪^{はだけゆき}抜け津波禍の湾に着く 和彌
更地又更地三陸冴返る 絹江
春寒し瓦礫消えてもただ荒野^{ひろし} ひろし
見はるかす津波更地の涅槃^{ねはん}西風 和彌
三月来まだ覚めやらぬ海の畏怖ひろし



いけばな展展示作品 池坊

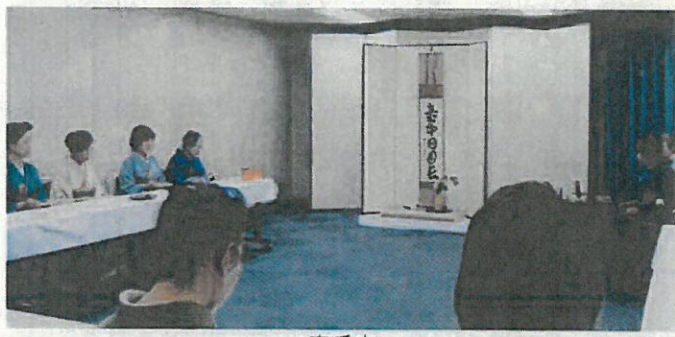
芸術祭茶道連合会茶会にて

茶道連合会会長 高野 新一

秋深い11月9日市文化会館コミュニティ棟にて茶会を開催しました。茶道において、掛軸は最も大切な一つで、良く見かけるのは禅語です。3階茶室には裏千家、床に掛かる軸「常行一直心」は「つねにいちじきしんをぎようず」と読みます。いつでも、どこでも、何ごとをす

るにも、常にただこの直心をすべてはたらかせて余念のないことを表わしています。茶道においても同じことであり、全身全霊をかたむけて主・客共に行じることです。2階洋室には表千家、置床に掛かる軸「壺中日月長」は「こちゆうじつげつながし」と読みます。中国の古い史書「後漢書」では、ある男が壺の中に誘われ小さな壺の中に入れてみると、そこは広い仙境でした。ここで種々の仙術を修行し、壺から出てみると、10日程と想ったが、現実の世界は、10数年が経っていたという事です。

茶道においては、狭小な室内に時間と空間とを超越した別天地を開き、主・客共に心ゆくまで楽しんで過ごすことです。このように書いて来ましたが、

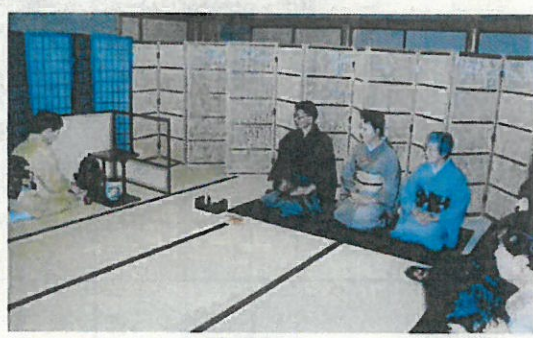


-表千家-

「3歳の童子も之を知ると雖も、80の老翁もなおいじがたい」とありませう。自戒をしながら平成27年度は、11月8日に、表千家（和室）裏千家（洋室）にて、心してお待ちしております。この一時無心になりお過ごしいただきたいと念じております。



裏千家 掛軸



-裏千家-

棋道部門

石巻は仙台藩の米の積出港として北上川河口に発達し、近年、河口西方に工業港を造成して繁栄してきた。

復興の北上河口春兆す ひろし

春風や鯖任を買っ仮設店 和 彌

かいつぶり己が水輪に浮き上がる 和 彌

水鳥と朝の光ともつれ合う 絹 江

寒いとはいえ、それでも日溜りには草が生え始め、めぐりくる次の季節を感じさせていた。

津波禍の家の跡形草萌ゆる 絹 江

慰霊碑へあまたの献花風光る ひろし

人住まぬ家をちこちに草萌ゆる ひろし

春風の道草拒む津波跡 絹 江

更地一望桜つぼみの避難山 和 彌

芽木固し津波禍跡の墓の群 ひろし

剥き出しのビルの鉄骨春北風 ひろし

被災者の現地ガイドの言葉が今も心に残っている。「あの年石巻に桜が咲いたのかどうか誰一人覚えていない」と。哀しみと失意の程が伝わる。

ただただ一日も早い復興を祈るばかりである。

囲碁連盟一年間の活動

藤谷 十一

囲碁は日本古来の文化です。発祥は中国で紀元前とされていますが、日本に奈良時代に伝来して、平安時代には貴族の間で打たれていました。紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』の中に碁のことが書かれています。この二人の才女たちも碁をたしなんだことでしょう。

その後我が国では、信長、秀吉の時代からそれを専門にする者が現れるようになり、ますます盛んになって現在では世界中に広まっています。私たち市囲碁連盟の会員は、そういう囲碁を愛し、日々研鑽に励んでいます。

行事として、市内の囲碁愛好者が集う「ひたちなか市民囲碁大会」(1月)が最大のイベントとしてありました。この大会は年々参加者が増えて近年では150人規模になっ

てきました。囲碁では県内最大級で、他市から称賛されています。そのほかに姉妹都市との交流として那須塩原市との交流会(9月)、県北市町村親善大会(6月)および常陸太田市との交流会(10月)を行いました。また、連盟内の行事として、宿泊研修(5月、7月)と定期大会(6回)も行いました。



芸術祭 市民囲碁大会



県北市町村親善囲碁大会



那須塩原市との交流囲碁大会

ひたちなか市文化協会組織図

分野	団体名	代表者	電話番号
美術	美術協会 書道協会 陶芸家協会 写真家協会	三好義章 長山素龍 芳賀野伸 平野	029-262-2428 029-272-7865 029-272-0600 029-272-2555
音楽	合唱連盟 市民吹奏楽団 市民オーケストラ Bトレイン	横川和浄 又田美範 柳原真勇 榊	029-285-6085 029-285-0007 029-285-5143 029-276-2610
舞踊	舞踊連盟 洋舞踊協会	岩井友紀 増田理恵 井田	029-273-6812 029-272-6423
伝統芸能	邦楽連盟 吟詠詩舞連盟 民謡民舞連合会 伝統文化連盟	初見宗郷 澤田達男 柏倉豊隆 鈴木	029-273-9144 029-262-4568 029-274-2179 029-263-3003
華道・茶道	華道連合会 茶道連合会	杉山豊和 高野新一 野	029-272-9392 029-272-0659
文学	俳句連盟	大野ひろし	029-263-6477
棋道	囲碁連盟	川崎博	029-272-4785

編集後記



文章作成が苦手の小生にとって、編集という言葉は今まで別世界の話であったが、今回何の縁か編集委員の順番になり、成り行きで編集委員長という大役を仰せつかることとなった。

長い会社勤めの間に、2、3度社内報に文章を書くことはあったが、毎回、悪戦苦闘の連続で、何時も期限ギリギリまで引き伸ばしては、最後は窮すれば通ずるかどうか間に合わせた経験がある。

幸い、今回は会報の内容が定着化して来たことと、優秀な事務局員の作業のこなしで、編集作業はスムーズに進んだようだ。

2月22日(日)の「春の祭典」もつつがなく終了し、ここに、無事第13号の白亜紀を、皆さんのお手

元に届けられることに、安堵している。

編集委員

委員長

羽田 昭男

榊 真

増田 理恵

岩間 義彦

吉元 絹江

事務局

芸術文化振興室

木田 伸子



「春の祭典」 展示部門の様子

会報 白 亜 紀
発行日 平成27年3月31日
発行者 ひたちなか市文化協会
事務局 ひたちなか市市民生活部生涯学習課
芸術文化振興室（生涯学習センター内）
TEL 029-272-6301
FAX 029-272-9297